

3年半前、島根であった鶏を捌き、命をいただく体験に娘と参加した。そこで指導してくれた愛農高校の生徒さんが印象的で。大袈裟で無く、私にとって生きる事とか、わたしの命を救って貰ったくらいの衝撃的な体験だったのよね。それから学校に興味が湧き、いつか行ってみたいと思っていた。娘へ、是非とも進学を勧めたが、自分で別の進路を決めた。大人だけじゃ学校を観に行けない、、と思っていたところにAINOU STAYイベントを知る。友人に話したら即決で一緒に行くと言ってきて、2人で参加した。感謝。

全国各地から12人の魅力溢れる大人が参加した。

参加者の自己紹介の時点で面白い。

学校の理念の素晴らしさ、先生方も魅力的で人間力溢れる。食事の自給自足率の高さと、何より雰囲気がとてもよくてリラックスして、没入して過ごせた。

中でも、夕食後の、夕会の時間が多くの参加者の印象に残った様で私もそのひとり。

持ち回りで、生徒の1人が、全校生徒の前で、近況や悩みなどフリートークするのを静かに聴くと言う時間。体感的に30分位かな。凄く静かで豊かな時間で、聴き手も相手と自分に向き合い、話し手も話しながら気づきを得たりするのだろう。オープンダイアログ的だなと感じた。

私は、話を聴きながら通り過ぎた青春時代を思い出したり、当時こんなに自己と向き合っていたのかな？と感じながら、学生の瑞々しい感性に魂が癒された。聖書の言葉と、美しい讃美歌の歌声に理由も分からず涙が溢れた。

学生さんから見たら、情緒不安定な中年女性に映ったかもしれない。その後の自己紹介と感想、感動の気持ちを伝える場面では、生徒さん全員があたたかい眼差しをくれてまた感動。

滞在中にいろんな生徒さんと話す場を設けて貰った。

農業全般を実践し、命に向き合う生活を日々送る中で、経験と言動が伴っているから、個々の在り方がしっかりとあり、話も哲学的と感じた。

そこには等身大の自分があり、目の前の人を大切にできていて、私のことも大切にしてくれているのが伝わった。

生徒さんみんなが自分の言葉で話してくれて、私にも、涙の理由も含めてたくさん質問してくれた。笑わずに真摯に受け止めてくれた。

私は初めの頃は高校生なのに、娘と同じ年頃なのに、しっかりしていて凄い、立派だ、と思ったけれどだんだんとそう次元の話ではないと気づく。私が思う高校生像の尺度で私が勝手に視ている事に気づくと同時に、愛農生は愛農生だから凄いのでは無くて。愛農に来て、愛農生と対峙し、個人として、組織としてどう豊かなのか感じて欲しいだろうと言う当たり前に気がつく。

もうね、そうすると年齢関係ないのだ。私の出会った愛農高校生は人間として素晴らしいし、人として敵わないところがあるな、、と。来訪した私達は、人として、大人として試されている様な感覚と、「わたしとは」という問いが同時にやってくるのよね。

参加者が感想をシェアする時間があって

それぞれの視点や感想はその人の人生観からくるものだから、面白くて、参加者とのシェアの時間は何周もできますね！と話した。

まだまだ、考えがまとまりきれないけれど、感じた事がすべて。考えるな、感じろの世界よね。

学生さんと話した内容は何気ない会話だったけれど、今後も忘れることはないだろう。

あの場には、真に大切な事が凝縮していて、自己の雑多な日常で忘れてたり見失った何かを思い出させて貰った貴重な時間だった。

なんと豊かな時間だったのだろうか。

まだ、余韻に浸っています。

ピンと来た方は今後、場を開いてくれる様なので、イベントへの参加を超絶おすすめします。

どう感じたか、聞いてみたいので行ってほしいな！

長くなったので、続きはまた。

AINOU STAY 2日目

6時から各自が希望した場所の見学をさせてもらった。

酪農、養鶏、作物の中から、私は牛を選んだ。

ふと、小学校の同級生に酪農をしていた友人がいて当時遊びに行かせて貰った思い出が甦った。隣の市にも観光できる酪農ファームがある。

私にとって身近な様で、でも身近でない酪農。

酪農部の学生さんは毎朝5時半からお勤めしているそう。

ここには牛舎にいる牛と、放牧している牛がいる。

先生と学生さんの後について、原っぱにいる牛を迎えに行き牛舎に導くのを見守らせてもらった。

先生と学生さんの話では、毎日観察していると、機嫌や感情、体調の変化に気づける様になると。

意識して、経験する中で分かっていくこと、できることなんだろうなあと。感嘆するばかり。

小学校時代に友人も同じことを言っていたな。

酪農部の学生さんと朝食を共にし語らい忘れられない言葉を貰った。もはやどちらが年上か分からなくなったよ。

さらりとした牛乳の美味しいこと。

果樹部の学生さんと話した内容も印象的だった。

木は天候によって、思い通りにならなかったり、動物と違う難しさがある。けれど、その果樹自体の歴史と、この木を守り、育ててきた人達が繋いできてくれたものがある。会った事のない先輩方と果樹を通して対話している様な感覚の時がある、だから楽しいのだと語ってくれた。

ここでもやはり、年齢ではない何かを感じた。

果樹と向き合う中で得られた感覚や、想像力、何より自然と先人へのリスペクトを持っていて、それを言語化できる力。どれだけ深く向き合っているのかを感じた。

先生をはじめ周りの大人も素敵なんだろうな。

心底、その学生さんを尊敬できた。

話してくれてありがとう、聴いてくれてありがとう。

一般人をあたたかく迎え入れてくれてありがとう。

たくさんのありがとうに溢れたね。

自然の中で等身大の彼らのおかげで、スツピンの自分に戻れた。

無自覚に鎧を背負っていたのかもしれない。

鎧を脱いだ私は、休み明けの仕事にスツピンで出勤するほどゆるゆるになり着いて焦った。

それくらい、ほどけていた。

学食の自足自給率の高さと美味しさと。

養豚部で食べさせて貰った幻のソーセージとベーコンの美味しさは忘れられない。

キャラの濃ゆい参加者が持参したタロットカードはみんなにとってドンピシャで盛り上がった。

参加者のみんな、地域、年齢、キャリアや役割が違うけれど、それぞれ問いを持って参加しているのが伝わった。今ここで出会うべくして会えたのだらうな。

ゆるやかに次に会う約束ができて心地よく、うれしい。